



ピンセットを使って培養スポンジに差し込むように種をまく福島市長

水耕栽培 冬の日照不足をどう補うか

11月25日、柏ガラス温室にて水耕栽培メロン実証試験の2作目がスタートしました。

メロンの通年栽培を目指す市では、7月から11月にかけて1作目を実施。98玉を収穫し、糖度も13～17度と上々の出来となりました。冬場の栽培となる2作目では「日照不足をどう補うか」が最大の課題となります。そこで、3種の異なる照明器具（LED、メタルハライドランプ、蛍光灯）を当て、成長スピードや味などを比較。最も有効な補助光源を探りながら、3月の収穫を目指します。福島市長は、「冬場はさまざまな試練が待っていると思うが、負けないようにおいしいメロンを作っていきたい」と抱負を述べました。

まちの安心・安全に役立てて

青森県遊技業防犯協会西北五支部（林成鎬支部長）が11月26日、市防犯協会（会長・福島市長）に対して防犯カメラ6台を寄贈しました。

同協会は、社会貢献の一環として県内の地域安全支援活動を行っています。今回は、防犯カメラの拡充を図っている市防犯協会の要望に応える形で寄贈に至りました。贈られた防犯カメラは、犯罪の未然防止・犯人の検挙等に役立てられます。市役所で行われた贈呈式では、林支部長が市防犯協会の箱田鐵雄副会長に「犯罪防止に役立ててください」と目録を贈呈。箱田副会長は「防犯だけでなく、行方不明者の捜索などにも役立つ。有効に活用させていただく」と感謝の言葉を述べました。



（左から）菊池智和つがる警察署長、箱田副会長、林支部長、同支部の七戸均副支部長



佐野選手に果敢に挑む児童たち

プロの技に歓喜

11月26日、向陽小学校（笹慎校長）で、プロバスケットボールチーム「青森ワッツ」の選手らを招いたバスケットボール教室が開かれ、2年生と5年生合わせて70人がプロの技を教わりました。講師を務めたのは、佐野太一選手と鈴木亮也コーチ。児童は、ドリブルやパス、シュートなど基本動作のポイントを教わった後、8～9人ずつのチームに分かれ、講師2人と試合形式で対戦。佐野選手らが豪快なシュートを決めるたび、歓声が上がっていました。バスケット部所属5年生の佐々木愛規くんは「ドリブルではボールを強く打つことと相手のかわり方を教えてもらった。次の試合で生かしたい」と笑顔。佐野選手は「どのスポーツでも楽しんで一生懸命がんばって」と呼びかけました。

自衛隊活動への協力に感謝状

日ごろから航空自衛隊車力分屯基地運営の支援に尽力したとして、車力基地協会（成田悦雄会長）および市自衛隊父兄協会（工藤祐一会長）の会員5人に対し、防衛大臣等から感謝状が贈られました。

12月1日、車力分屯基地内で贈呈式が行われ、根岸大輔基地司令から5人に感謝状が手渡されました。防衛大臣感謝状を受けた松橋昇さんは「地域の方々の理解と協力があってこそ。これを励みに、今後も基地の活動を支えていきたい」と話していました。その他の受賞者は次のとおりです（敬称略）。
航空幕僚長感謝状：工藤祐一、北部航空方面隊司令官感謝状：木村兼四郎、第六高射群司令感謝状：鳴海司、台丸谷成人



根岸基地司令から感謝状を受け取る松橋さん

いつでも相談、みんなで防止

車力警察官駐在所連絡協議会(松橋俊造会長)が12月3日、市社会福祉協議会車力支所(藤元節子支所長)に対して「2021ほのぼの地域カレンダー」100枚を贈りました。

カレンダーには「お金の話は危険なサイン」などの標語や110番通報する時のポイントがまとめられており、一人暮らしの高齢者に配布して詐欺被害の防止などに役立てられます。

カレンダーを受け取った藤元支所長は「毎年みなさんが楽しみにしている。とても助かります」と感謝。車力駐在所の加藤貴志巡查部長は「2020年は地域の詐欺被害が少なく、カレンダーが一役買っている。2021年も電話の近くに貼って、何かあったらいつでも相談してください」と話していました。



(左から) 加藤巡查部長、松橋会長、藤元支所長



遺跡研究のあゆみを掘り下げた講座

亀ヶ岡遺跡に関する研究を深掘り

12月12日、「深掘り！縄文遺跡もの知り講座」が松の館で開催され、市民ら約50人が、市内の縄文遺跡について知識を深めました。講座は、遺跡ボランティアガイド登録者や一般市民の方を対象に、亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚についてより深く知ってもらおうと、2回にわたって開催するものです。

1回目の今回は「亀ヶ岡遺跡の研究のあゆみ」と題して市教委の羽石智治学芸員が登壇。同遺跡を紐解く上で重要な役割を果たした研究者や、出土品のコレクターにスポットライトを当て、研究の歴史について掘り下げました。羽石学芸員は「亀ヶ岡文化への愛着を持った方々の取り組みが、遺跡の価値を広めることにつながっています」と話していました。

日ごろの感謝を含めた門松をプレゼント

木造中学校(山谷光寛校長)の生徒が日ごろの感謝を含めた門松を制作し、正月前にお世話になっている方々へ贈呈しました。

同校生徒による門松作りは今年が初めて。さとう農園(木造菰槌)の佐藤史成代表の協力を得て、3年生113人が14対を制作しました。

12月15日、同校3年の新岡幸心さん、三戸陽翔さん、新谷祐祥さんらが市役所を訪問。3人は「充実した学校生活を送ることができるのは皆さんの支えがあってこそ。いつもありがとうございます」と職員らに門松を贈呈しました。

門松は、市役所のほかつがる警察署や同校学区内の小学校、保育園などにも贈られました。



門松を贈呈した木造中の生徒ら



鳥居に米俵としめ縄などを飾る地域住民

穏やかな年を願い三十三俵・しめ縄奉納

木造地区の木作町内会(白戸英行会長)は12月20日、家内安全などを願い、三新田神社に米俵としめ縄を奉納しました。

三新田神社は元和元年(1615)ごろに建てられ、五穀豊穡を祈願する場所として親しまれてきました。しめ縄奉納は一旦途絶えましたが、平成4年に同町内会が復活させてから今年で29回目となります。

この日は住民20人ほどが参加。1カ月半かけて編んだ約300kgの大しめ縄を鳥居に巻きつけ、その上に干支である丑の絵を飾った後、33の米俵が次々に積まれて行きました。

白戸会長は「疫病収束、早く普段どおりの生活に戻ることを祈ります」と新年の平和を願っていました。